

「JENESYS2.0」

2017年度中国高校生訪日団第3陣Aコース

訪問日程 平成29年11月7日(火)～11月15日(水)

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した2017年度中国高校生訪日団第3陣Aコース計148名が、11月7日から11月15日までの8泊9日の日程で来日しました。(団長：張超(チョウ・チョウ) 海南省教育庁国際合作交流処・処長)

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、「社会福祉」をテーマとしたプログラムで東京都を始め、北海道・宮城県・栃木県・千葉県・静岡県・岐阜県・三重県・京都府を訪問し、「クールジャパン」を含め、様々な分野における日本の魅力、強みを体感したほか、高校や大学の訪問・交流を通じて、同世代の青少年同士の友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

11月7日(火)

第1・2・3分団：羽田空港より入国、皇居見学

第4分団：成田空港より入国

第5分団：羽田空港より入国

11月8日(水)

共通：オリエンテーション

社会福祉に関する講義

浅草寺・仲見世通り見学、歓迎会

11月9日(木)

第1分団：北海道へ移動、北海道医療大学視察

第2分団：宮城県へ移動、岩沼市障害者地域就労支援センター ひまわりホーム、
岩沼市障害者地域活動支援センター・やすらぎの里視察
防災学習・自然視察(岩沼ひつじ)

第3分団：静岡県へ移動、特別養護老人ホーム ふじトピア視察

第4分団：岐阜県へ移動、美濃加茂市社会福祉協議会、和風旅館での日本文化体験

第5分団：三重県へ移動、救護施設 菰野陽気園視察 和風旅館での日本文化体験

11月10日(金)

第1分団：学校交流(北海道札幌旭丘高等学校／市立札幌開成中等教育学校)

第2分団：せんだい3.11メモリアル交流館視察、学校交流(宮城県仙台東高等学校)

第3分団：学校交流(学校法人藤枝学園 藤枝明誠高等学校)

第4分団：学校交流(岐阜県立岐阜農林高等学校)

第5分団：学校交流(三重県立名張青峰(名張西)高等学校)

11月11日(土)

第1分団：札幌オリンピックミュージアム見学、体験プログラム(ホームステイ)

第2分団：国宝・瑞巖寺・松島見学、体験プログラム(和太鼓・ホームステイ)

第3分団：体験プログラム(ホームステイ)

第4分団：体験プログラム(美濃和紙)、セラミックパークMINO、岐阜県現代陶芸美術館見学

第5分団：伊賀上野城、伊賀流忍者博物館、伊勢神宮、おかげ横丁見学

11月12日(日)

第1分団：体験プログラム(ホームステイ)千葉県へ移動

第2分団：栃木県へ移動、栃木県防災館視察

第3分団：京都府へ移動、金閣寺見学、体験プログラム(京友禅染)

第4分団：虎渓山永保寺見学、ノリタケの森見学、東京都へ移動

第5分団：京都府へ移動、伏見稻荷大社見学、体験プログラム（京友禅染）
ワークショップ（成果取り纏めディスカッション）

11月13日（月）

第1分団：学校交流（千葉県立千葉東高等学校）
第2分団：学校交流（栃木県立黒磯南高等学校）那須温泉神社・殺生石見学
第3分団：学校交流（京都府立南陽高等学校）
第4分団：学校交流（東京都立板橋有徳高等学校）
第5分団：学校交流（学校法人京都光楠学園 京都学園高等学校）
第1・2・3・4分団：ワークショップ（成果取り纏めディスカッション）

11月14日（火）

第1分団：千葉市科学館見学、東京都へ移動
第2分団：もみじ谷大吊橋見学、東京都へ移動
第3分団：東京都へ移動
第4分団：品川清掃工場視察
第5分団：東京都へ移動
共通：歓送報告会、商業施設視察

11月15日（水）

第1・2・4分団：原宿、明治神宮見学、羽田空港より帰国
第3分団：羽田空港より帰国
第5分団：原宿、明治神宮見学、成田空港より帰国

3 写真

<共通>



11月8日 社会福祉に関する講義 (東京都)
クララオンライン CEO 家本賢太郎講師



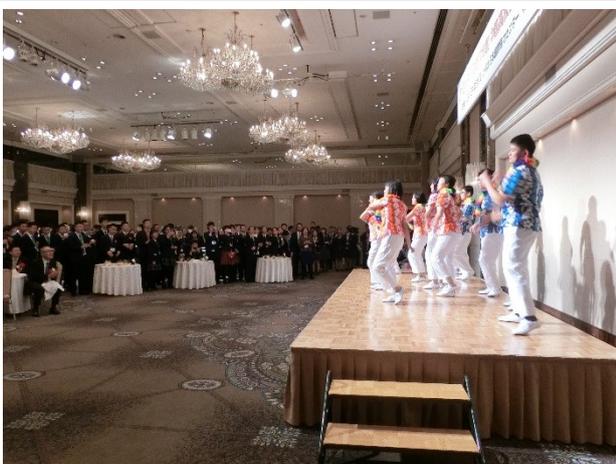
11月8日 社会福祉に関する講義 (東京都)
クララオンライン CEO 家本賢太郎講師



11月8日 社会福祉に関する講義 (東京都)



11月8日 歓迎会
日本高校生パフォーマンス(東京都)



11月8日 歓迎会
中国高校生パフォーマンス(東京都)



11月14日 歓送報告会 訪日成果報告(東京都)

<第1分団>



11月9日 北海道医療大学視察(北海道)



11月10日 北海道旭丘高等学校訪問・交流
(北海道)



11月10日 市立札幌開成中等教育学校訪問・交流
(北海道)



11月12日 ホームステイ(北海道)



11月13日 千葉県立千葉東高等学校訪問・交流
(千葉県)



11月14日 千葉市科学館見学(千葉県)

<第2分団>



11月9日 ひまわりホーム視察（宮城県）



11月9日 岩沼ひつじ見学（宮城県）



11月10日 宮城県仙台東高等学校訪問・交流
（宮城県）



11月11日 ホームステイ（宮城県）



11月12日 栃木県防災館視察（栃木県）



11月13日 栃木県立黒磯南高校訪問・交流
（栃木県）

<第3分団>



11月9日 特別養護老人ホーム ふじトピア視察
(静岡県)



11月10日 藤枝明誠高等学校訪問・交流
(静岡県)



11月10日 藤枝明誠高等学校訪問・交流
(静岡県)



11月11日 ホームステイ (静岡県)



11月12日 体験プログラム (京友禅染)
(京都府)



11月13日 京都府立南陽高等学校訪問・交流
(京都府)

<第4分団>



11月9日 美濃加茂市社会福祉協議会 視察
(岐阜県)



11月10日 岐阜県立岐阜農林高等学校訪問・交流
(岐阜県)



11月11日 体験プログラム (美濃和紙)
(岐阜県)



11月11日 セラミックパーク MINO 見学
(岐阜県)



11月13日 東京都立板橋有徳高等学校訪問・交流
(東京都)



11月14日 品川清掃工場視察 (東京都)

<第5分団>



11月9日 救護施設 菰野陽気園視察（三重県）



11月10日 三重県立名張青峰（名張西）高等学校
訪問・交流（三重県）



11月11日 伊賀上野城参観（三重県）



11月11日 伊勢神宮参観（三重県）



11月12日 体験プログラム（京友禅染）
（京都府）



11月13日 京都学園高等学校訪問・サッカー交流
（京都府）

4 参加者の感想（抜粋）

- 今回、中日交流の使者として日本を訪れ、多くの収穫を得ることができた。この収穫は、日本の美しい景色がもたらしたものもあるが、それ以上に友情を深め、交流が進んだことにより得られる満足や喜びが大きかった。
- 帰国したら、文化（伝統工芸、音楽、芸術、美術）について周囲に伝えたい。日本の文化に対して更なる認識を得る事ができた。
- 大震災後の復興の状況がとてもすばらしいと感じた。廃墟からわずか数年のうちに建物が建ち、色とりどりの庭に生まれ変わり、生命力と活力が戻り、関係先はすばやく効果的な運用を開始し、人々の健康については一連の調査研究を行うなど、人に対する配慮が表れていた。
- 日本の社会福祉に関する事が最も印象深かった。至る所に障害者や高齢者のための設備が整っているのが見られ、日本の政策は「ゆりかご」から「墓場」までの全面的な福祉の保障を実現していて、健全な福祉社会であると思った。
- 帰国後、私たちは、生活が不自由な周りの人たちを思いやり、福祉政策を健全にする情報を伝えたい。日本に学び、設備を整え、優先席などを占有したりせず、設備を破壊しないといった小さいことを自分自身から始め、周囲にも始めるよう伝えたい。
- 日本社会においては、人々が礼儀を重んじ、マナーを守り衛生を保つ事に務め、時間を守る意識が高い事を、帰国したら周囲に伝えていきたい。
- 福祉施設「ひまわりホーム」で、障害者が社会のお荷物ではなく、生活に必要な技能を習得し、仕事や社会の役に立っていることを学び、中国でも見習い改善していくべきだと感じた。
- 仙台滞在中に目にした震災復興の様子は忘れることができない。来日してすぐには、この地で起こった全てを奪い去った津波のことに全く気づかなかったが、雑草が生い茂る海岸近くに立った時、私は感嘆せずにはいられなかった。何という強靱な精神が、度重なる破壊の中からこの国を立ち上がらせてきたのだろう、と感じた。災害の度に積み重ねてきた日本の防災意識もまた、私たちが学ぶべき点だと思った。
- ホームステイ時のホストファミリーの方々の優しさは、私の感動の域を超えていた。永遠に忘れることはないだろう。たった一晩お世話下さっただけだったが、日本の方々の善良さと素朴な温かさが胸に深く沁みた。
- 日本について何も知らない友人には、東京の華やかさを語るよりも、ホームステイですごしたモダンで文化的雰囲気あふれる田舎のことを話してあげたいと思った。日本では、田舎とは貧しさの代名詞などではなく、暮らし方の理念に過ぎないのだと感じた。

- ホームステイは、僕の心に一番残った出来事だ。ホストファミリーのお宅に着いてすぐ、僕はそこが自分の想像とは違っていただけに気づいた。集合住宅ではないし、かまどの煙が立ち上るような田舎っぽい雰囲気でもない。立派な戸建てで、とても今風でモダンな感じであった。空間が有効利用され窮屈さは全く感じられず、お父さんと息子さんが僕たちの世話をしてくださった。夜は強風が吹き荒れ、気温は零度近くまで下がったが、家にいると山に抱かれているかのような安心感を覚えた。言葉は通じなかったものの、僕たちはスマホの翻訳アプリを使い色々な話ができる。お父さんたちは僕たちの暮らす熱帯の景色のことを、僕たちはこの町の四季折々の風景について聞き、交流とは「互いに自分の知らない事を知る」という事だと感じた。
- 仙台東高校での交流が最も心に残った。これまで生きてきた中で一番忘れられない思い出となった。最初会った時にはお互いまだ硬さがあったものの、中国のお土産を贈ったところ、何度も「謝謝（ありがとう）」とお礼を言ってくれた。彼女のしぐさやその言葉からは、まごころが伝わり、私との交流を心から楽しんでくれているのが感じられた。授業の時にもたくさん助けてもらい、どんな時にも微笑みを絶やさず、親身になって細やかに気を配ってくれる日本の生徒に私は本当に心打たれた。帰国したら周りの人たちに、日本の高校生たちがフレンドリーで優しかったこと、私たちにとても気を遣ってくれたこと、先生を敬っていたことを話したいと思う。
- 日本の整った社会保障サービスの施策及び高齢者のための機器や設備が先進的だったので、印象に残った。バリアフリー設計、特に日本のトイレは細かい所まで観察すると、点字があったり、便器や手摺りの高さまで考えられていた。
- 日本は、「優しくて礼儀正しい人々の暮らす強くて美しい国」だと、帰国後、身近な人たちに伝えたいと思う。そして、細部にこだわり完璧を目指す精神、災害にも決して屈することのない心は、私たちが見習い尊敬すべき点だということも伝えたい。
- 日本は少子高齢化が進んでいる一方、高齢者向けの施設が完備されている。ふじトピアを見学した際、館内の設備が十分に整えられていて大変感銘を受けた。
- 帰国後は、特に日本の社会福祉については重点的に紹介したい。将来は私たちが中国の社会福祉の重責を担っていく。日本はこの方面における模範である。日本はさまざまな事が細部にまで行きわたっており、将来、私の友人たちも日本を訪問し、学ぶことができることを希望する。
- 学校交流が大変印象に残った。農林高校は生態や栽培関係のカリキュラムが多く、有徳高校は授業の前後にチャイムがないという事を特色として、生徒に自由に個性を発揮する余地を与えていた。両校とも生徒の実践能力を重視し、教科書の内容を実際に活用させていた。これはまさに私たち中国の生徒に不足している事だと思う。日本の学校の先進的な文化を参考にすれば、私たち中国もさらに創造的な新しい人材を輩出できると思う。

- 岐阜の社会福社会館が一番印象深かった。高齢者たちはとても元気で明るく活発であった。多くの高齢者が楽観的に生きていて、自己の価値を懸命に創り上げていた。これも日本人が長寿である理由の一つかもしれないと思った。中国も高齢化問題が日に日に深刻になっている。高齢者に対しては物質面での支援だけではなく、精神的な癒しが必要で、人は自分の価値を感じることができてはじめて本当の楽しさを知るのだと思った。
- 日本の学校では、生徒たち自身による自主管理業務が多く行われていた。自分の学校に戻ったらこのやり方を広めたいと思う。生徒たち自身の管理能力や責任感を養うことができると感じた。
- 人に対する優しい親切な接し方を帰国後、周りの人たちにも伝えたい。また、同時に私も同じやり方で、周りの人たちと接していきたいと思う。
- 日本の高校生とのサッカー交流が印象的だった。試合の前に、日本の生徒たちは一列に並んで、敬礼のお辞儀を行った。日本の高校のグラウンドは土でできていて、中国の芝のグラウンドほど良くないが、お辞儀を行い、スポーツ（サッカー）に対する彼らの尊重の気持ちと愛情を強く感じ取った。スポーツだけではなく、職場や、自分の置かれている環境、周りの人々に対しても彼らが同様の気持ちを抱いているのは、高い教養と素質を備えているからだと思った。
- 日本人のゴミの分別を見て、真面目さと厳密さを感じた。また、日本人の礼儀礼節に感心した。我が国は大変礼儀を重んじる国だが、日本では中国と異なった礼儀礼節を感じた。新幹線で老人や児童に席を譲ったり、道路では、車を早く走らせる事はせず、通行者がいたら譲り、人の通行を優先していた。コミュニケーション（会話）をしている時は、視線をはずす事なく静かに耳を傾けてくれた。帰国したら、このような礼儀や文化を周囲の周りの生徒たちに伝え、日本の文化の優れた部分を取り入れ、我が国も礼儀礼節の国となる事を望む。